

令和5年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

薬剤師部門

飯島 徳哲 川村 憲市

令和5年度の日本精神科医学会学術教育研修会薬剤師部門は、令和6年1月13日(土)・14日(日)の2日間にわたって山梨県支部の担当により、テーマを「RELEARN 薬剤師として精神科医療を学び直す」として山梨県立図書館のイベントスペースで開催され、116名が参加した。開講式前に令和6年能登半島地震の犠牲者に対し能登半島に向かって黙祷が捧げられた。

開講式で日本精神科病院協会(日精協)山梨県支部支部長 山角駿先生から開講挨拶、続いて山崎學 日本精神科医学会学会長から挨拶があり、DPAT(災害派遣精神医療チーム)事務局本部立ち上げ、チームの招聘、派遣等が緊張感をもって伝えられた。引き続き「精神科医療の将来展望」と題した会長講演が日精協山梨県支部支部長 山角駿先生の座長により進められた。精神保健福祉行政の歩みとともに薬物療法の流れの説明の中、現在問題となっているジェネリック薬剤の品不足や診療報酬改定についてもコメントがあった。

昼食時には、「楽しい甲州弁」と題して五緒川津平太(ごっちょがわつっぺいた)さんによる甲州弁についてのお話があった。「行っちょ」が行くなどという意味になることから始まり、医学用語まで紹介された。また家の中で場所を示すのに東西南北で示すことが多く、そのためか黙祷前に能登半島の方角をずっと指し示せることに納得した。最後は甲州弁シンデレラ朗読で閉じた。熊本地震の際に災害支援者に向けた地域別方言集が話題を呼んだが、標準語では表せない方言による微妙な心の表現を学ぶ必要性を感じた。

昼食後に特別講演1として住吉病院副院長 加賀



美真人先生の座長により山梨大学医学部精神神経医学講座教授 鈴木健文先生による「統合失調症における抗精神病薬の使い分けおよび剤型に関する考察」と題した講演が始まった。膨大なデータからの薬剤の選択には試験デザインの吟味、対象の選択が重要で幅広いドメインを考慮する必要があると締めくくられた。

講演会1として山梨厚生病院精神科診療部長 佐藤佳夫先生の座長により、山梨県立北病院院長 宮田量治先生による「統合失調症の関わりのコツと重度慢性例に対する効果的な薬物療法」と題して、病気、病識、ASD(自閉スペクトラム症)とのオーバーラップの理解から、クロザピン、LAI(持続性注射剤)の使用に加え、精神療法への関わりについて期待が示された。

1日目最後の講演2は、山角病院薬局長 深澤孝夫先生の座長で山梨大学ワイン科学研究センター教授 柳田藤寿先生による「最新の日本ワイン事情とワイン開発」と題し、発酵に関する研究開発、特に山梨県ゆかりの地で分離された酵母での商品開発について説明を受け、ワインの試飲もさせていただいた。またネームプレートの裏にはワインの引換券がついており、嬉しいサプライズとなり1日目の日程を終えた。講演会場の後手には山梨銘菓とドリンクが用意され、リラックスしつつ引き込まれる講演ばかりであった。また格好良く上着を翻して動かれている日精協山梨県支部支部長 山角駿先生を先頭に、素早く対応されていたスタッフの皆さんの活躍がまさに風のごとくだった。

2日目の特別講演2は、日下部記念病院院長 久保田正春先生の座長で「精神科薬物療法の方向性～治療意思決定と医療の質改善を中心に～」と題して、北里大学医学部精神科主任教授 稲田健先生が講演をされた。精神科の治療に関して当事者と治療者の双方が参加し話し合うための技術であるSDM（共同意思決定）の考え方と医療安全の観点から医療事故調査制度の概要を事例を交えて話され、医療を行う時に必要な要件として診断ガイドラインの重要性と薬剤師も身体症状に注意することの必要性を話された。医療の質向上に関しては病院機能評価と診療ガイドラインの説明、薬物療法の概要、有用性等をグラフ、データを織り交ぜて話された。

講演会3は、HANAZONO ホスピタル薬局長 弦間貴秀先生の座長で「精神科薬物療法を安全に行うために薬剤師として知っておくべきこと」と題して、公益財団法人住吉偕成会理事長 吉尾隆先生が講演をされた。はじめに統合失調症患者における薬物療法は抗パーキンソン薬やベンゾジアゼピン系薬の併用等、薬剤が減少傾向にあること、薬剤師は臨床的な経験も必要となることを話された。続いて各精神疾患の薬物療法、副作用チェックの重要性、抗パーキンソン薬使用の問題点を示された。最後に臨床研究を行っていくことの重要性の観点から医療統計の基礎を説明され、講演を終えられた。

昼食時のランチョンセミナーの後、公開講座と

して HANAZONO ホスピタル薬剤課係長 両宮健太先生の座長で「小児期の精神疾患と薬物療法について」と題して、HANAZONO ホスピタル副院長 山角圭先生が講演をされた。はじめに発達障害を中心に外傷後ストレス障害、強迫性障害、チック障害等、各疾患の概要を話された。続いて臨床で使用される薬物について話され、薬物療法を始める前に考えておくこととして、薬物療法を検討する疾患の説明をされた。最後にほとんどの薬物が適応外使用であることが問題点であるが、適切な量の薬の使用は、患児にとって十分利益をもたらすため、必要に応じて薬物療法も利用しながら、その間に環境調整や対応の工夫などを行いつつ本人の成長を促していくことが重要であることを話された。公開講座であったため、一般の方々向けに分かりやすく説明され講座を終えられた。

閉講式では日本精神科医学会より受講者代表への受講証書授与、山梨県支部へ感謝状が読み上げられた。最後に日精協山梨県支部支部長 山角駿先生より閉講の挨拶があり2日間の全日程が終了した。

本研修会の報告を終えるに当たり、山角駿支部長をはじめ企画・運営をされた山梨県支部会員の先生方および事務局、関係者の方々に深く感謝を申し上げますとともに、山梨県支部の益々のご発展を祈念申し上げます。

(日本精神科医学会
学術教育推進制度学術研修分科会)